教育・文化週間

市民公開講座

弘前大学総合文化祭「知の創造」事業

放射線リスクコミュニケーションを考える

日時

平成26年 **10月26日（日）**
13：30〜15：30

会場

弘前大学創立50周年記念会館
2F 岩木ホール

■入場料　無料
■対　象　一般市民・学生

主催：弘前大学総合文化祭「知の創造」弘前大学大学院保健学研究科事業
共催：弘前大学大学院保健学研究科高度実践被ばく医療人材育成プロジェクト
放射線リスクコミュニケーション教育部門
平成26年度学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム
活性化支援事業費補助金対象事業

〈お問い合わせ〉弘前大学大学院保健学研究科総務グループ
電話：0172-39-5905

講演1

「集団から個への
放射線リスクコミュニケーション」

講師：弘前大学大学院保健学研究科特任講師
福島　芳子 先生

講演2

「放射線リスクコミュニケーションに
いま何が求められているのか」

講師：大分県立看護科学大学環境保健学研究室教授
甲斐　倫明 先生

市民公開講座
弘前大学総合文化祭「知の創造」事業

放射線リスクコミュニケーションを考える

講演の概要

講演1 「集団から個への放射線リスクコミュニケーション」

講師：弘前大学大学院保健学研究科特任講師　福島　芳子 先生

東京電力福島第一原子力発電所事故後、福島県の住民を対象とした放射線の健康影響に関する様々な研修会やセミナーが実施されてきましたが、その多くは、多人数参加型かつ一方向の説明によるものでした。現在、事故後3年間を経過し、住民の大きな関心は社会的影響へシフトしていること、個々人の放射線に関する知識の程度やおかれている生活環境の相違により、疑問や考え方等が個別化してきていることから、本当に聞きたい話を気兼ねなく聞ける双方向のコミュニケーションをきめ細かく繰り返し実施する必要が生じています。

国では、個々人の不安に対応したきめ細かなリスクコミュニケーションの強化として、平成26年2月に、「帰還に向けた放射線リスクコミュニケーションに関する施策パッケージ」を公表しており、それらの取組みがより推進されることを期待し、これまで経験してきた実践事例を紹介します。

講演2 「放射線リスクコミュニケーションにいま何が求められているのか」

講師：大分県立看護科学大学環境保健学研究室教授　甲斐　倫明 先生

福島事故以後、リスクコミュニケーションが社会的に注目されています。そこでは、行政や専門家は、放射線を正しく理解してほしいと考え、基礎的な知識を提供しようとします。一方で、放射線に不安に思う市民は知りたい情報を得ようとしますが、「大丈夫」という説明には納得がいかず、専門家は信頼を失いました。事故以後、日本国内で行われた多くの講演会が本来の意味でのリスクコミュニケーションになることができませんでした。その背景を皆さんと一緒に先ず考えたいと思います。では、リスクコミュニケーションとは何でしょうか？　市民と専門家・行政関係者がリスクの情報を共有することではありますが、双方向の対話によって共に問題を克服しようという考えから生まれた概念ですので、単なる情報の共有ではないはずです。このギャップを埋めることから考えなければなりません。そのためには、科学的情報とその不確かさ、リスク対応の社会的判断に至るまで、市民と行政・専門家が共に考える日常的な対話の場が求められているように見えます。